

基本目標1 支え合い助け合い 『人』がつながるまちづくり

実現するためにめざすこと	施策・事業	取組内容	令和5年度実績	進捗状況	課題等	Withコロナ アフターコロナを踏まえ た事業内容の見直し	今後の 方向性	担当部署
1 みんなで地域のつながりをつくる	1 高齢者の生活支援体制の整備	高齢者の生活支援・介護予防の推進を目的に、地域での生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向け、地区社会福祉協議会の再編を行い、「生活支援コーディネーター」や「協議体」を設置します。	①協議体の運営を社会福祉協議会へ委託し、日常生活圏域ごとに7人、本部に1人の生活支援コーディネーターを配置し、地域の課題や社会資源の開発等検討し報告回答等を行った。	○ほぼ計画どおり進んでいる	①地域の課題、ニーズに対し外出、見守り、集いの場、担い手不足、今後の施策に反映できるかが課題である。	①無し	維持	①高齢者支援課
	2 市民協働の推進	地域づくりや男女共同参画、NPO関連など、市民協働推進に関する事業をPRし、活動を促進します。	②広報誌や市民活動応援サイト「みんなみネット」を活用し、市民協働推進に関する事業をPRした。また、袖ヶ浦市の中学校にて、「生徒とともに身近な男女共同参画を考える」をテーマに、南房総地域の自治体と寸劇事業を実施した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②令和7年度以降から「みんなみネット」のサーバー契約を行わない予定であるため、インターネットを通じた新たな情報発信方法の検討を行う	②無し	維持	②市民課
	3 「地域づくり協議会」への支援員の配置	「地域づくり協議会」に「地域づくり支援員」を配置し、地域のさまざまな活動団体等との連携を調整して、市民と行政の協働のまちづくりを推進します。	②地域づくり協議会の支援及び地域づくりプロデュースを担うため、地域づくり支援員を各地区2人（三芳、和田地区は1人）の計12人を配置し、協働のまちづくりを推進した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②地域づくり協議会メンバーの固定化や高齢化、新規加入会員が少ないことによる活動のマンネリ化。	②無し	維持	②市民課
2 地域のさまざまな分野の機関とつながり、活動する	1 「地域づくり協議会」への支援	市の重点プロジェクトの一つである「協働のまちづくり」に向けて、「地域づくり協議会」に運営交付金を交付します。	②住民自らが考え主体的に行動する地域づくり協議会に、運営交付金を交付し支援することにより、地域の活性化が図られた。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②地域づくり協議会メンバーの固定化や高齢化、新規加入会員が少ないことによる活動のマンネリ化。	②無し	維持	②市民課
	2 市民活動応援事業	市民の自主的で多様なまちづくり活動を応援するため、それぞれの活動レベル・内容・組織形態等に応じた支援を行います。	②市民活動団体・NPO等の活動支援として、市民提案型まちづくりチャレンジ事業補助金を9団体に交付した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②市民提案型まちづくりチャレンジ事業補助金の補助終了後の自立及び活動継続の支援。	②無し	維持	②市民課
	3 企業・起業家への支援	地域にしごとをつくり、ひとの流れをつくるため、企業・起業家に対する支援を行います。	⑥新たな仕事と雇用創出支援事業 25件	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑥無し	⑥無し	拡充	⑥商工課
3 地域交流の場をつくる	1 老人クラブへの助成	高齢者の生きがいを高め、健康づくりを進める活動やボランティア活動等のさまざまな活動への助成や、高齢者の孤立を防ぎ、地域での見守り支援や介護予防の促進を図るため、単位老人クラブ内に「友愛活動チーム」を組織し、ひとり暮らし高齢者等の家庭を訪問するなどの友愛活動への助成を行います。	④市老人クラブ連合会及び単位クラブの運営費及び事業費に対し補助金を交付した。補助加算制度を活用し「いきいき百歳体操」の普及に取り組む団体が増加した。 令和5年度単位クラブ数 46団体	○ほぼ計画どおり進んでいる	④会員数の減少や超高齢化による単位老人クラブの休止や解散が増加しており、高齢期の地域交流や地域参画の機会が減少している。	④無し	維持	④高齢者支援課
	2 コミュニティ集会所の建設・改修への助成	行政区から要望のあった集会所の新築工事、改修工事の費用の一部を助成し整備することで、地域コミュニティを育みます。	②地域のコミュニティの基盤を維持するため、地域コミュニティの活動拠点となる集会所の整備経費に対し、補助金を交付する事業。	○ほぼ計画どおり進んでいる	②新築・改修工事の補助上限額の見直し。	②無し	維持	②市民課
	3 地域子育て支援拠点施設の運営	妊娠期から幼稚園入園前までの親子が利用できる施設を運営し、子育てについての相談、情報提供、助言その他の援助を行い、子育ての不安を和らげ、子どもたちの健やかな育ちを支援します。	⑨利用実績（延べ人数） にこここひろば 6,662人 出張にこここ広場 252人 にこここ教室 544人 親子体操教室 155人 計画通り事業を実施することができた。教室やイベントなどの情報を房日新聞に掲載することで新規利用者の開拓に努めた。継続した利用の他、新規利用や市外の利用も増えている。	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑨来年度よりほのほののスタッフが各子ども園をまわり、園庭開放を利用する親子に対して子育て支援を行う。スタッフ同士の情報共有や子ども園との連携が課題となる。	⑨無し	維持	⑨子ども教育課
	4 公民館活動の推進	公民館・生涯学習推進員主催の各種講座や教室を企画・運営し、市民の生きがいづくりと福祉の増進を図ります。	⑩「まちの先生」の企画講座・生涯学習推進員の主催による各種講座を企画運営し、市民の生きがいづくりと福祉の増進を図った。講座82回を開催し、1,745人の参加を得た。	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑩新型コロナウイルス感染症対策による制限等をほぼ解除し、これまで実施できなかった講座・教室が実施できるようになってきた。今後については、地域の方々のニーズを的確に把握し、特に学び直しや、継続講座に着目し、多くの人が健康で、安心して生涯学習活動に参加できるよう講座を開催する。	⑩飲食と伴う内容については要内容協議	維持	⑩生涯学習課
4 災害に備えた地域の連携体制を強化する	1 避難行動要支援者(要援護者)の支援	避難行動要支援者の名簿を作成して関係機関・関係者（民生委員・児童委員、自主防災組織等）に提供し、災害時の互助に役立てます。また、平常時から名簿を活用して対象者の状況を確認することにより、災害時に避難等が円滑に行われるよう備えます。	②無し ④避難行動要支援者名簿の登録者を対象に、個別避難計画を作成するため、関係部署と協議を行った。 ④モデル地区（富山地区）に対して2例の個別避難計画を策定した。 ④避難行動要支援者名簿について1団体と名簿の提供について協議を行った。令和6年度名簿提供団体は128→129団体になる見込み。 個別避難計画については、医療的ケア児及び重度障害児者本人・家族や相談支援専門員と打合せを行い、作成を進めた。また、個別避難作成に向けて避難所見学会の実施や避難訓練の検討を行った。	△計画より遅れている ○ほぼ計画どおり進んでいる △計画より遅れている	②無し ④地域連携会議（行政区、民生委員・児童委員、消防団）の協力が必要。 ④担当部署間の連携。 ④作成優先度の高い避難行動要支援者の個別避難計画について、全庁的な作成スキームの検討が必要。	②無し ④無し ④無し ④無し	維持 検討 維持	②市民課 ④消防防災課 ④高齢者支援課 ④社会福祉課

基本目標1 支え合い助け合い 『人』がつながるまちづくり

実現するためにめざすこと	施策・事業	取組内容	令和5年度実績	進捗状況	課題等	Withコロナ アフターコロナを踏まえ た事業内容の見直し	今後の 方向性	担当部署
	2 福祉避難所への受入委託	「地域防災計画」による「福祉避難所」について、締結した協定に基づき、高齢者福祉施設・障害者福祉施設への受け入れを委託します。	③要配慮の方で市の指定避難所において生活が困難な方を直接受け入れる「指定福祉避難所」の制度を確立し、14施設と協定を締結した。	◎計画より進んでいる	③指定福祉避難所の災害発生時の受入準備や運営、報告などの訓練等を実施する必要がある。	③無し	維持	③社会福祉課
	3 防災環境の整備と自主防災組織への助成	災害発生に備え、必要な防災備蓄品や備蓄倉庫、避難路の整備や避難場所標識の設置等、防災環境を整備します。また、自主防災組織に補助金を交付します。	④期限を迎える備蓄食糧の更新を実施した。主食7,000食 補食6,000食 自主防災組織補助金を、21行政区等に交付した。	◎計画より進んでいる	④継続して防災備蓄品及び備蓄食糧を整備していく。また、各行政区等に自主防災組織補助金を活用してもらい、防災に対する意識の醸成を図る。	④無し	維持	④消防防災課
5 外出に困らない地域をつくる	1 外出支援サービス事業の検討	外出支援サービス先進地の取り組みについて調査し、新たな外出支援の仕組みについて検討します。	①R4に実証運行をはじめた「チョイソコ南房総・館山」（富山地区の一部及び三芳地区全域）は、本格運行に切替え、路線の再編を図った。また、白浜地区と千倉地区の一部及び丸山地区において実証運行を行い、地域にあった運行形態を検討した。 ②社会福祉協議会が実施しているボランティア移送サービスについて、南房総市公共交通空白地有償運送運営協議会において、社協事務所の統合にあわせて利用料金の改定及びボランティア報酬の改定が承認された。 ③令和6年3月に策定した南房総市障害福祉計画にて外出支援の課題を検討した。	○ほぼ計画どおり進んでいる	①車社会が浸透したなか、運転に不安がありながらも免許証を手放す環境になっていない。 ②地域課題として市内外横断的に検討する必要がある。	①無し ②無し	①維持 ②検討	①企画財政課 ②高齢者支援課 ③社会福祉課
	2 外出支援への助成	外出が困難な非課税世帯の高齢者がタクシーまたはバスを利用する場合に、その料金の一部または全部を助成します。	④高齢者外出支援タクシー券（1枚700円上限、最大25枚、1回あたり2枚まで）及び高齢者外出支援バス券交付者（1枚160円、最大60枚、1回あたり1枚まで）を交付した。令和6年度からはタクシー券（高齢者区分）の交付上限枚数を25枚から30枚に拡充するほか、バス券・タクシー券ともに1回乗車あたり使用可能枚数を2枚から4枚に拡充する。 令和5年度交付実績（2月末時点） タクシー券 416人 バス券 291人	○ほぼ計画どおり進んでいる	④バス路線の減便や撤退、タクシー事業者の運転手不足や廃業等により加速する公共交通の空白や不便を解消していく必要がある。	④無し	拡充	④高齢者支援課
	3 市営路線バスの維持管理	市民の生活路線である市営路線バス（富浦線・富山線）の維持管理や改善を行います。	①市営路線バス（富浦線・富山線）について、バス事業者に業務委託をして運行及び管理を行った。また、両路線とも令和5年10月にダイヤ改正を行い、富山線は、全便を道の駅富楽里とみやまに立ち寄り改正を行い、富浦線は、実証運行を経て、買い物便を週3日組み込む改正を行った。	○ほぼ計画どおり進んでいる	①人口減少や車社会の影響により、利用者が減少している。	無し	維持	①企画財政課
	4 地域生活路線バスの維持	利用者の減少により存続が危ぶまれるバス路線を維持するために、事業者へ補助を行います。民間事業者が廃止した路線を、廃止代替路線としてバス運行します。	①赤字路線である4路線について、バス事業者へ運行経費から収益を差し引いた金額を関係自治体との距離按分により補助を行った。バス事業者が廃止した2路線について、廃止代替路線として運行を行った。このうち、令和5年9月末で1路線を廃止し、10月より乗合送迎サービス「チョイソコ南房総・館山」の運行を開始した。また、上記のほか、南房総・館山地域公共交通活性化協議会において令和3年8月に策定した「南房総・館山地域公共交通計画」に基づいて各事業を行った。	○ほぼ計画どおり進んでいる	①人口減少やコロナ禍の状況により、利用者が減少している。	無し	維持	①企画財政課
6 福祉活動への意識を高め、担い手を増やす	1 福祉教育の推進	小・中学校での福祉教育を推進します。また、市民にも福祉教育の普及を図ります。	⑤各教科の学習や総合的な学習の単元において、「多様性」についての学習がある。支援を必要とする高齢者や視力や聴力など障害のある人についての理解を深める学習を、各小中学校が教科横断的に行った。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症が断続的に蔓延する中、交流形態を工夫することで継続することができた。	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑤高齢者施設への訪問はまだ以下の四つの交流形態を工夫することができない状況である。外部の人たちとの交流学習の持ち方について工夫が必要である。	⑤来年度も年間を通して連続性のある交流を大切に、以下の四つの交流形態を工夫することで、お互いが身近な存在に感じられるようになると考える。（1訪問交流 2オンライン交流 3DVD・手紙等の交流 4通信・作品等の交流）	維持	⑤子ども教育課 ⑥社会福祉課
	2 青少年赤十字活動への助成	「青少年赤十字活動」を行う学校に補助金を交付します。	⑥学校での赤十字活動ができなかったことから補助金の申請がなされなかった。	△計画より遅れている	⑥市内に青少年赤十字活動を実施する学校がない	⑥無し	維持	⑥社会福祉課
	3 介護人材の確保	介護職の人材確保、質の向上を目的に介護職員初任者研修または実務者研修に要した費用の一部を助成します。また、市内の介護施設等で介護福祉士として従事しようとする人に、修学資金を貸付けます。外国人材の育成・確保について検討します。	⑦介護職員初任者研修または実務者研修に要した費用の一部を助成した。対象を介護施設のほか障害者施設を追加した。 決定件数 6件 介護施設等で介護職として従事しようとする人に、修学資金を貸付けを行った。 申請・決定件数 4件 留学生受入施設支援補助金 申請・決定件数 1件	○ほぼ計画どおり進んでいる	⑦申請件数が少なく、周知が必要。	⑦無し	拡充	⑦高齢者支援課